

希望と期待を胸に 小学校入学式

町内小学校3校の体育館では4月8日、入学式が開かれ、新1年生94人が大きな希望と期待を胸に学校生活をスタートさせました。



晴れ姿を写真に残す保護者

福島小学校では新1年生28人が入学しました。6年生と手をつなぎ少し緊張した面持ちで1年生が入場すると、温かい拍手で迎えられました。吉井あかねさん(6年)から「入学するのを楽しみにしていました。早く仲良くなりたいです」と歓迎の言葉を贈られた1年生は、6年生全員が歌う校歌をうれしそうに聞いていました。(上写真)

新井綱人校長が「あいさつをしっかりとすること。友達と仲良くすること。そして車に気をつけることの3つを約束してください」と呼び掛けると、1年生は大きな声で返事をしました。

こいのぼりが大空を泳ぐ

秋畑那須地区の「こいのぼりの里」が5年ぶりにオープンしました。

第11区住民の皆さんが4月14日、こいのぼりを一つ一つワイヤーに結びつける作業を行い、約200匹が大空を元気に泳ぎ始めました。飾り付けたこいのぼりの多くは寄付により集められたものです。



秋畑那須地区



こいのぼりの取り付け作業を行う住民の皆さん

区長の浅香 浩さんは「5年ぶりで取り付け作業に悪戦苦闘しましたが、地域ににぎわいを生み、訪れる人々の目と心を楽しませたいです」とその思いを語りました。

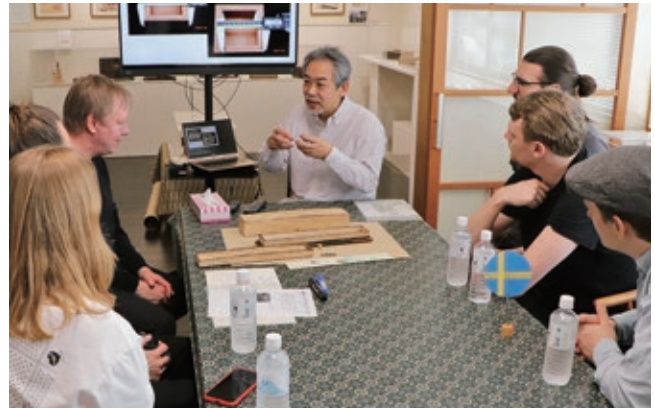
「こいのぼりの里」
5月12日(日)まで



木工芸作家の技と心を伝える 須田さん

家具職人を目指すスウェーデンのリンショーピン大学・マルムステン家具研究科の教員と学生9人が3月4日、重要無形文化財「木工芸」保持者(人間国宝)で名誉町民の須田賢司さん(小幡)の工房を訪れました。

須田さんは「木工芸作家にとって最も重要なことは木材の特徴などを理解することで、知識や経験のみならず木材と生活し自分の手で創り、銘品に触れ自分自身を啓発する中でしか得られない感覚がある」と話し、道具や木材の説明や作品の構造について丁寧な説明を行いました。



作品について説明をする須田さん(中央)



人間国宝の世界観に触れた教員と学生

学生たちは写真を撮ったり質問したりするなど興味深く聞き入っていました。須田さんは「技術を身に付けるだけでなく美的センスを磨き、卒業してからもそれぞれの道でがんばってほしいです」と話しました。

多文化交流で共に育む地域社会を 国交振

甘楽町国際交流振興協会(長岡昭宏理事長)は3月23日、多文化交流をして相互理解を深めてもらおうと「料理教室」をら・ら・かんらで開催し、町内の事業所に勤めるベトナムとインドネシア出身の6人が参加しました。

町の友好交流都市である中国ハルビン市出身で同協会会員の佐俣福艶さん(福島)が講師を務め、同市の郷土料理である「水餃子づくり」に挑戦しました。参加者は熱心に調理方法を聞き、試行錯誤しつつ会話を弾ませながら水餃子を完成させました。

同協会は今年8月に中国ハルビン市と子どもたちの相互派遣を企画しています。



餃子の皮の広げ方を教える佐俣さん(左)

ツツジが丘陵を ピンク色に染める

4月中旬、琴平山運動公園近くの丘陵地にミツバツツジが一斉に咲き誇りました。

斜面一面をピンク色に染め、澄み渡った青空に映える花が、道路を行き交う人や近くを散歩する人の目を楽しませました。



(4月16日撮影)

県代表で活躍 ソフトテニスで全国ベスト16

第35回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会が3月27・28日、三重県伊勢市で開かれました。昨年11月に行われた同大会群馬県代表選手選考会で優勝した鈴木權正さん、渡邊惺矢さん(ともに甘楽中・3年)ペアが県代表として出場し、個人戦のダブルスで全国ベスト16と大活躍しました。

鈴木さんは「学ぶことも多く貴重な経験ができました。これからは、みんなから応援される選手を目指し、そして総体で全国大会に行き活躍できるようにがんばります」、渡邊さんは「経験したことのない緊張感の中、鈴木くんの声掛けで緊張が和らぎました。保護者や応援してくれた人たちにも感謝します。この経験を今後生かしていきたいと思います」と力強く話しました。



鈴木さん(左)と渡邊さん

選抜野球大会で初優勝！甘楽中野球部

第23回関東甲信越中学生選抜野球大会「風の会」が3月16・17日、前橋市で開催され、甘楽中学校野球部が初優勝を飾りました。

県内32チームをはじめ、栃木・神奈川・新潟・埼玉からの招待チームを加えた計58チームが参加した同大会は、初日に予選、2日目は上位4チームによる決勝トーナメントが行われ、同校野球部が熱戦を制しました。

金井 祐キャプテン(3年)は、「練習を積んできたので“優勝”という結果が出て良かったです。次は夏の大会を優勝して関東大会出場を目指します」と今後の抱負を語りました。



賞状とトロフィーを手に笑顔を見せる選手

職人気分を味わう 和菓子づくり体験

「伝統和菓子 はさみ菊づくり体験会」が3月24日、ら・ら・かんらで行われ、町内の小学生とその保護者など約20人が参加しました。

講師の甘楽菓子工房こまつや(金井)の山本雄三さんが、「練りきり」に先のとがった専用のはさみでひとひらずつ花びらを作っていくように切れ込みを入れる技法を披露すると、参加者からは感嘆の声が上がりました。

その後、参加者も手ほどきを受けながら真剣なまなざしで菊の花を完成させ、和菓子職人気分を体験しました。



作成途中の「はさみ菊」(参加者作)



はさみを入れるポイントを伝える山本さん(左)